



西中だより

令和8年度重点目標

なりたい自分をイメージし、
ともに高め合う生徒の育成

令和8年6月30日発行
第4号

挑戦が、人を育てた。— 6月の挑戦を、ともに振り返る —

① 駆け抜けた6月——体育大会・壮行会・中体連

6月5日、体育大会が行われました。6月11日には、中体連へ向かう選手たちを全校で送り出す壮行会も開催され、その後、中旬から下旬にかけて、各競技の大会が本格的に行われました。気づけば、6月に予定されていた大きな挑戦の舞台を、子どもたちは全て駆け抜けました。

先月の学校だよりで「失敗は、成長のスタートライン」という言葉をお伝えしました。体育大会のグラウンドで、壮行会の声援の中で、そして中体連の会場で、子どもたちは幾度も「挑戦」と向き合いました。**うまくいった瞬間も、悔しさを噛みしめた瞬間も、すべてが彼らの成長の糧になっています。**

そして、一部の種目では、この挑戦がさらに**北海道大会**へと続いています。一つの舞台を終えた生徒も、次の舞台に挑む生徒も、それぞれの挑戦を、私たちは同じように見守り、支えてまいります。

② 「プロセス」を、見ていただけましたか

保護者の皆さまにお願いしていたことを、覚えていらっしゃるでしょうか。「**結果よりも、プロセスを見てください**」というお願いです。

体育大会では、本番までの練習の積み重ねが。壮行会では、仲間に背中を押された選手たちの表情が。中体連では、最後まで諦めなかった一瞬一瞬が。それぞれの場面に、お子さんの努力の跡が刻まれていたはずです。

試合や競技の後、こんな声かけをされた方も多いのではないのでしょうか。

「よく挑んだね」「あの場面、かっこよかったよ」

結果がどうであれ、その挑戦への承認の言葉が、次の挑戦の確かな燃料になります。

③ 行事が残した「自律」と「つながり」

体育大会や中体連を通じて、子どもたちが育んだのは競技の技術だけではありません。時間を守ること、仲間のために動くこと、感情をコントロールしてフェアに戦うこと——これらはすべて、余市町が大切にする**「自ら律する力」**そのものです。

学校では、行事を通じて深まった「ともに高め合う」クラスのつながりを、日常の授業にもしっかりと還元してまいります。大きな行事を乗り越えたクラスの空気は、教室での学び合いを、これまでよりも一段深くしてくれるはずです。

④ 「なりたい自分」への、確かな一歩

余市町は今年度、子ども像として**「自ら律し、学びに向かう力と人間性を高める子ども」**を掲げました。これは、西中学校が大切にしてきた「なりたい自分をイメージし、ともに高め合う生徒の育成」と、同じ方向を向いています。

体育大会、壮行会、中体連——6月、子どもたちが全力を尽くしたその姿は、まさに「なりたい自分」への確かな一歩でした。北海道大会へと挑戦を続ける生徒も、ここで一区切りを迎えた生徒も、その歩みを支えてくださった保護者の皆さまに、心から感謝申し上げます。

7月は、1学期の総まとめの月です。今月の挑戦で得た自信と成長を糧に、子どもたちを次のステージへ送り出してまいります。6月も、チーム西中で。ありがとうございました。

やってみよう！ つながろう！ ありがとう！

余市町立西中学校 校長 庄司 真人